2026.1.20 Tue. → 3.22 Sun.

生活工房ギャラリー（三軒茶屋駅直結 キャロットタワー3階）

9:00-21:00

入場無料／月曜休み（祝日をのぞく）

三軒茶屋 大人の街 記憶 ひらめき、ひらめき、ときめき 記録 北世田展

SANGENJAYA'S SMALL BUT MIGHTY SANKAKU-CHITAI AREA: EXHIBITION OF MEMORIES AND RECORDS

〒154-0004
東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー
TEL：03-5432-1543 E-mail：info@setagaya-idc.net
WEB：www.setagaya-idc.net

【え】

エコー－なかみせ【－仲見世】［商店］世田谷地域は比較的被害が軽微だった。そのため、東京市の下町から焼け出された人々が世田谷等の郊外に住み始める。三軒茶屋の本格的な宅地化はこの流れを受けたもの。

かんばん－けんちく【看板建築】［キーワード］昭和初期の都市部の商店を中心に流行した建築様式。木造建物の面を、鋼板やモルタル、タイルなどで立のように覆った。関東大震災の火災を機に加え、当時流行していたモダンデザインへの嗜好が相まって、多くの商店がこの様式を採用した。その後、バブル時代の地上げなどによって激減。現在、三軒茶屋地区においては旧街道沿いを中心に点在する。

【こ】

こうしゅう－トイレ【公衆－】［生活［過］］ヤミ市として出発した三角地帯の店舗にはかつてはトイレの設備がなく、商売を営み暮らす人々は一様に三角地帯内の公衆トイレを使っていた、と証言がある。

こくどう－にんろく－ごうせん【国道246号線】［道・交通］東京都千代田区宝坂から静岡県沼津市までを結ぶ一般国道。大山詣のための古道「大山道」の道筋をほぼ踏襲している。戦後、国道1号線のバスとして拡張された。世田谷を貫く大動脈としても機能しており、三軒茶屋駅周辺では世田谷通りと分岐、特に渋谷区の明治通りとは古くから都県境である新二子橋までの区間は玉川通りとも呼ばれる。→大山道

こまざわ－てんきちん【駒澤電氣館】［娯楽［過］］1925年開館の三角地帯で一番の長い歴史を誇った映画館。1943年「三軒茶屋映画劇場」に改称。1945年の山の手空爆の際に全焼するが、戦後復興、全盛期の1952年には、姉妹館として三軒茶屋中央劇場を開業する。戦後の三角地帯の華やかさを象徴する映画館だった。1992年閉館。跡地には大型高層マンションが建設された。

こまの－ゆ【駒の湯】［生活］世田谷通りの路地に入ってすぐの、三角地帯の一番外れに位置する銭湯。三軒茶屋駅から比較的近い立地ながら、男女の客で賑わう。昭和歌謡の雰囲気を湛えた水風呂で知られ、「三角地帯の最後の砦」と言われたこと、ある。

【さ】

さんかく－ちたい【三角地帯】［生活］三軒茶屋駅前、国道246号線と世田谷通りの分岐点に挟まれた商店・飲食店街の通称。戦後復興の最中に建てられた店舗がいまだに多く残る。周辺が再開発されていく中、変わらない雰囲気が雑誌などの取材対象になるようになり、1980年代ごろ「三角地帯」という呼称とともに注目されるようになった。

さんげんちゃや【三軒茶屋】［土地・エリア］世田谷区の地名。三軒茶屋駅や世田谷通りの南側に位置する、三角地帯を含む新旧様々な区画。エリアが並ぶ。地名の由来は、江戸時代の大山道（現・国道246号線）と戸道（現・世田谷通り）の分岐点、近江信楽（後に石橋楼）、角屋、田中屋の三軒茶屋が並んでいたことから。文化文政時代（1804－1830年）には定着し、地名であったが、それ以上の正式な地名になったのは1931年の世田谷区成立時である。

さんげんちゃや－えいがきじょう【三軒茶屋映画劇場】［娯楽［過］］→駒澤電氣館

さんげんちゃや－シネマ【三軒茶屋映画劇場】［娯楽［過］］1954年開館、2014年に閉館した名画座映画館。当初は「三軒茶屋東映」の名で東映系列の一番最後まで営業を続けていた。閉館後、映画館のあったビルは現存し、営業当時の看板や受付跡が残っている。

さんげんちゃや－だいえい【三軒茶屋大映［娯楽［過］］1947年頃「三軒茶屋第一映画劇場」として開館。1963年頃に閉館。全盛期には2スクリーン体制で、大映作品や洋画などが上映していた。現在跡地にはマンションが建っている。

さんげんちゃや－ちゅうおうげきじょう【三軒茶屋中央劇場】［娯楽［過］］1932年、世田谷中央劇場として開館。2011年閉館。三軒茶屋映画劇場の姉妹館、松竹系の映画館として出発した。その後、名画座、日活ロマンポルノ、ミニシアター系と、さまざまな路線変更を経ながら営業。劇場正面にはかつての絵があり、「カッパの映画館」として親しまれていた。跡地にはスーパーやカラオケが入居する現代的なビルが建つ。

さんげんの－ちゃや【三軒の茶屋】［歴史］大山道（現・国道246号線）と世田谷通（現・世田谷通り）の分岐点にあった、信楽（後に石橋楼）、角屋、田中屋の三つの茶屋のこと。主に大山詣に向かう参拝客に向けて営業をしていた。その後、明治期に角屋が閉店。田中屋は火災で焼失。田中屋はその後陶器に業種を変え、「田中屋陶苑」として現在も営業。橋楼は「茶寮イシバシ」として近代化しながら最後まで飲食を提供していたが、戦争末期の建物強制疎開令により閉鎖。

さんげん－ビル【三元－】［建物・施設］キャロットタワーの正面から三角地帯へ向かう路地裏に建つ地上7階、地下2階

【し】

したのや－しょうてんがい【下の谷商店街】［生活］三軒茶屋駅の北東、茶沢通りから東の路地を入ったところにある商店街。関東大震災で被災した下谷区（現・台東区）の人々が集団であったこの地に移り住み、商店街が形成されたのがルーツとされる。周辺の細い道筋は、かつての田畑に引き込む水路跡。

しょう－さんかく【小三角】［キーワード］三軒茶屋の三角地帯の範囲を示すくくりの一つ。国道246号線と世田谷通りとの分岐点から、エコー仲見世、3番街、ゆうくん通りまでを指すことが多い。三角地帯の範囲についてはおのおの意見が分かれ、大まかに「小三角」派、「大三角」派に分かれるようだ。→大三角

【せ】

せたがや－せん【世田谷線】［道・交通］三軒茶屋駅と下高井戸駅を結ぶ東急電鉄の軌道線。1925年、玉川電気鉄道の支線である下高井戸線として開業。1969年に玉川線が廃止されて以後、世田谷電車から残る唯一の路線。2001年までは、玉川線で使用された路面電車タイプの車両が運行されていた。

せたがや－どおり【世田谷通り】［道・交通］三軒茶屋駅前の交差点、国道246号線の分岐を起点として、町田市に至る都道。ボロ市の行われる世田谷代官屋敷のそばを通る歴史ある道筋であり、旧大山道でもある。国道246号線の元の道筋である新大山道は、大山詣が流行する中で、この道のショートカットルートとして整備された経緯がある。

【た】

だいさんかく【大三角】［キーワード］三軒茶屋の三角地帯の範囲を示すくくりの一つ。小三角の路地帯から千代の湯、三軒茶屋シネマ跡、さらに東側の角までを含むことも。→小三角

たいしどう【大師堂】［生活］世田谷区の地名。三軒茶屋駅や世田谷通りの北側に位置する（三角地帯を含む南側は「三軒茶屋」）。域内にはキャロットタワーや、たくさんの大型施設が立ち並ぶ。域内南北を走る茶沢通り沿いは多くの商店があり、たくさんの人で賑わう。地名の由来は、域内北部にあった聖徳太子をまつる太子堂から、かつて「太子堂村」と呼ばれていた当時は、太子堂のある円泉寺周辺が村落の中心だった。

たまがわ－でんき－てつどう【玉川電気鉄道】［歴史（過）］渋谷駅から三子玉川駅（現・二子玉川駅）を結んでいた軌道線（路面電車）。元々は、多摩川の砂利運搬を目的に通した。三軒茶屋駅は世田谷区役所・松陰神社を通る支線・下高井戸線（現・東世田谷線）と接続する。ターミナル駅として栄えた。1938年に東京横浜電鉄（現・東急電鉄）と合併、戦後、車社会の定着による経営悪化を経て、1969年に東急玉川線（路面電車）に吸収されて廃止。

【ち】

ちよの－ゆ【千代の湯】［生活］三角地帯の路地の奥にある銭湯。昭和の雰囲気を色濃く残すレトロな建物に、浴場にはタイルがあり、コロナ禍により長期休業中。

【て】

でんえんとし－せん【田園都市線】［道・交通］渋谷駅から神奈川県大和市の中央林間駅までを結ぶ東急電鉄の鉄道路線。渋谷駅から二子玉川園駅まで走っていた路面電車の玉川線を代替する路線として1977年に地下鉄として開通。2000年までこの区間は「新玉川線」とも呼ばれた。三軒茶屋駅では東急世田谷線に乗り換えることができる。

【と】

とうきょう－おりんぴっく【東京－】［歴史］1964年に開かれた日本初開催のオリンピック大会。駒沢公園が国立競技場に次ぐ第二会場に選定されたため、競技場の改修・新設や道路拡張工事にたくさんの働者が従事した。そのため、駒沢公園に近い

【な】

なかざと－どおり【中里通り】［道］三軒茶屋駅の南西、国道246号線から分岐する旧道。かつての大山道の道筋を、まっすぐ通っている。新道建設による再開発も逃れており、沿道には「看板建築」の名残を残した商店が点在する。

【に】

に－かい【二階】［キーワード］三角地帯に連なる商店の多くは、かつて店子の家族が二階部分を居住スペースとしていた。現在、物置として使われることが多いが、新たに入った店舗では二階部分を店舗空間として活用する例もみられる。エコー仲見世の二階部分はアーケードの構造の内側に隠れており、地上からその姿を確認することはできない。

【や】

やまのて－だいくうしゅう【山の手大空襲】［歴史］1945年5月25日、第二次世界大戦末期の米軍による焼夷弾を用いた大規模な無差別爆撃。3月10日の東京大空襲に続く大規模な空襲。この空襲で、三軒茶屋の大半が焼け野原になった。付近の駒沢練兵場などの陸軍施設があり、空襲の目標となったこの地区が狙われた。

ヤミ－いち【－市】［キーワード］非合法に設けられた市場。戦後の混乱期に建物の制疎開や空襲の焼跡などの空地において、制疎開や空襲のあった三軒茶屋一帯に広がった。三角地帯エリアは、戦後、ヤミ市として再出発した場所が商店街化したものが、その始まりとされる。

【ゆ】

ゆうらく－どおり【－通り】［生活］有地所を横断する商店街の一つ。ヤミ市さながらの小さな区画に多くの飲食店がひしめく。ラーメン料理やジンギスカンなどの新しい店舗も受けられる。「ゆうらく」の名は、戦後の時、パチンコ店が軒を連ねていたことから。

入場無料／月曜休み（祝日をのぞく）

主催：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房　協力：三軒茶屋エコー仲見世商店街　後援：世田谷区／世田谷区教育委員会

世田谷文化生活情報センター 生活工房 Lifestyle Design Center